



[京都市の景観重要建造物]

景 008 (H18)

この建物は、江戸時代より刀の下げ緒商を営んだ豪商・岸田家の一族が住んでいたもので、当初は表通りに面して更に2室ある大店でしたが、明治初期、京都市電（北野～京都駅）の開通に先立つ中立売通の拡幅工事のため、表通りに面した2室は取り壊され、現在の規模になりました。

中立売通の南に面して表屋が建ち、玄関を挟んで主屋が建つ典型的な表屋造で、主屋の南にある緑豊かな座敷庭を挟んで土蔵が建ち、その西側には隣地境界線に沿って塀が設けられ、主屋につながっています。

江戸時代後期に建てられた表屋は、木造中2階建て、切妻平入りで、見世庭に面する糸屋格子、仕舞多屋格子などが良好に保たれ、下屋根には鍾馗の像が祀られています。建築当時の大戸は捲り上げ戸であり、現在は1階見世庭の天井に吊り下げられた状態で保存されています。

主屋座敷の奥の間には、床と床脇が設けられ、天袋や丸太の床柱、平書院で構成されています。

土蔵の外壁は漆喰塗り、2階小窓の庇の持ち送りには漆喰の彫刻が施され、鬼瓦には財福の神である大黒天とえびすが置かれています。



捲り上げ戸



座敷庭



〒602-8241 京都市上京区役人町241
※個人宅のため、通常非公開です。